

〈特集「受動表現」〉

アイヌ語沙流方言における受動表現 Passive expression in the Saru dialect of Ainu

吉川 佳見
Yoshimi Yoshikawa

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究職員 / 東京外国語大学非常勤講師
Researcher, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum / Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は特集補遺「受動表現」のアンケートの項目に基づき、アイヌ語沙流方言のデータを与えることを目的とする。

Abstract: This article offers Ainu (Saru dialect) data based on the questionnaire for the special issue “Passive expression”.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001480>

キーワード: アイヌ語, 沙流方言, 受動表現, 四人称

Keywords: Ainu, Saru dialect, Passive expression, fourth person

1. はじめに

アイヌ語は近年の急激な母語話者数の減少により、母語話者に対するアンケート調査がほぼ不可能な状態となっている。そこで本稿では、特集補遺「受動表現」のアンケートの見出しになるべく近い用例を、公刊済みの文献（辞書含む）から抽出することとした。抽出できなかったものは「不明」と記した。

アイヌ語は北海道、樺太、千島などの方言に大別され、さらにそれぞれの地域において細分化されるが、本稿で使用したデータは北海道南西部のアイヌ語沙流方言のもの（および沙流方言だと推測されているもの）である。アイヌ語は現存する日常語の資料がきわめて少ないため、本稿に掲載したものは日常語の用例と散文説話における用例とが混在している。散文説話では日常語と異なる人称接辞の使い方をしますが、そのほかについて両者の文法的な差異はほとんど無いとされている。また、引用した用例は1950～80年代頃に収集・採録されたと考えられるものが主である。引用にあたり、アイヌ語本文の表記は北海道ウタリ協会編(1994)『アコロ イタク』に準拠して変更を加えたものがある¹。日本語訳は原則原典に従ったが、補足が必要と思われるものについては括弧の中に記した。散文説話からの用例（または人称接辞の使われ方からそう考えられるもの）については、用例の日本語訳末尾に《説話》と記した。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 但し、同書では人称接辞境界は「=」（半角イコール）で表記するが、本稿では「-」（半角ハイフン）を用いた。

2. アイヌ語の人称表示について

アイヌ語では動詞における人称表示が義務的に行われる²。人称接辞には主格人称接辞と、目的格人称接辞があり、三人称では主格目的格ともにゼロ表示となる。

人称接辞のなかには、四人称人称接辞ともよばれる形がある。四人称人称接辞は、他動詞主格「a-」、自動詞主格「-an」、他動詞目的格「i-」の形をとるが、この人称接辞は、不定人称、敬意の二人称、物語中の叙述者の人称、引用文中の話者の人称といった複数の用法を持つ。「物語中の叙述者」は、多くの場合主人公である「私」を指す。日常会話では、一人称単数主格 ku-, 一人称単数目的格 en- などの人称接辞が用いられるのに対し、物語中ではこれらの接辞は使われず、「私が」の場合は a-または-an が、「私を/に」の場合は i-が用いられる。

四人称人称接辞には「4」のグロスがあてられることがあるが、本稿では便宜上、物語文中の叙述者の人称（「私が」等）にも 1SG.S 等のグロスをあてている。また、物語中の叙述者の人称を「不定人称」として示す立場もあるが、本稿では、動作主体が明示されない不定用法のときのみ INDF のグロスを与えている。

3. アイヌ語の受動表現について

まず、アイヌ語の受動文の基本的な構造を確認する。（本項目では説明の都合上、作例を含む。）たとえば「猫が魚を食べた」という文は、アイヌ語では「cape cep e.」（例(1)）となるが、これを受身文つまり「魚が猫に食べられた」としたい場合³、「cep cape or wa a-e.」（例(2)）となる。名詞 cep 「魚」は目的語のままであり主語にはならない。「or wa」⁴は、「～から」という意味で、「cape or wa」は副詞句を形成している。動詞 e 「食べる」には四人称人称接辞の「a-」が付く。ここでの四人称は不定用法であり、魚を食べた動作主が明示されない場合には「cep a-e.」（例(3)）のようになる。同様に、例(4)を受動文にすると例(5)のようになる。動作主が明示されない場合は例(6)のようになる。

(1) cape cep e.

猫 魚 を食べる

猫が魚を食べた。（作例）

(2) cep cape or wa a-e.

魚 猫 から INDF.S-を食べる

魚が猫に食べられた。（魚が猫から／猫によって食べられた。）（作例）

(3) cep a-e.

魚 INDF.S-を食べる

魚が食べられた。（作例）

² 人称代名詞の使用は任意である。

³ 主語と目的語の位置を入れ替えただけでは受身文にはならない。「猫が魚を食べた」はアイヌ語の基本語順 SOV に従えば「cape (猫) cep (魚) e (を食べる) .」となるが、「cep (魚) cape (猫) e (を食べる) .」としても文法的に問題はなく、どちらがどちらを食べたのかは文脈により判断される。

⁴ or wa (または oro wa) は、位置名詞 or(o) 「ところ」、格助詞 wa 「～から (起点格)」から成る。

(4) toan kur en-kopasrota.

あの 人 1SG.O-を叱る
あの人が私を叱った。（作例）

(5) toan kur or wa a-en-kopasrota.

あの 人 から INDF.S-1SG.O-を叱る
私はあの人に叱られた。（作例）

(6) a-en-kopasrota.

INDF.S-1SG.O-を叱る
私は叱られた。（作例）

受動表現に関するものとしては，中相形形成の接頭辞 *ci-* もある。*ci-* は「他動詞に接頭して中相の表現となる。日本語に訳すと三人称を主語とする自動詞にまたは受け身に訳せる。」（田村 1996 : 48）
たとえば他動詞 *cari* 「～を散らす」（例(7)）に *ci-* が接頭すると，自動詞 *cicari* 「散らされた，散らばった」（例(8)(9)）となる。

(7) aep puyar kari opitta a-cari⁵ ruwe ne akusu
食べ物 窓 から すべて 1SG.S-を散らす こと COP すると
（私は）食べ物を窓から全部ばら撒くと《説話》

（大谷 2011 : 47）

(8) cisekitay cicari wa an.

家の屋根 散らばる て いる
屋根が（風に吹き飛ばされ）散らかっている。

（田村 1996 : 48）

(9) kemihi cicari uskehe

血 散らばる 所
血が散らばった所

（田村 1996 : 48）

⁵ ここでの「a-」は不定人称ではなく、「物語中の叙述者」の人称（＝「私が」）である。

4. データ

1-1 AはBに叩かれた。【直接受身】

(10) tanukuranne a-matnepoho⁶ a-rayke

今晚 1SG-娘 INDF.S-を殺す

cikap oro wa a-rayke hi ne nankor pe

鳥 から INDF.S-を殺す こと COP 推量 もの

「今晚、娘は殺された。」

鳥に殺されていただろうに《説話》

(大谷 2018 : 127)

(11) oyakoyak ta a-i-kikkik pe ne kusu

あちこち で INDF.S-1SG.O-を何度も殴る もの COP ので

(私は) あちこちで何度も殴られたので《説話》

(平石 2003 : 129)

1-2 AはBに足を踏まれた。【持ち主の受身, 体の部分】

(12) ohasiksey korka ne kamihi a-risparispa wa

目玉がない けれど その 肉 INDF.S-を何度もむしる て

目玉の無い体だけれどもその肉をむしられむしられて《説話》

(AA 研アイヌ語資料公開プロジェクト: 川上まつ子「uwepeker ウウェペケレ民話 6」)

1-3 AはBに財布を盗まれた。【持ち主の受身, 持ち物】

不明

1-4 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。【自動詞からの間接受身】

不明。いわゆる迷惑の受身表現の用例は、管見の限り見られない。

1-5 新しいビルが (Aによって) 建てられた。【モノ主語受身, 一回的】

(13) a-uni soyke ta pirka pon cise sinna a-anu hine

1SG-家 外 に 良い 小さい 家 別に INDF.S-を置く て

私の家の外にきれいな小さな家が別に建てられたので《説話》

(AA 研アイヌ語資料公開プロジェクト: 川上まつ子「uwepeker ウウェペケレ民話 10」)

(14) rewsian uske a-hunara akusu toska corpok ciowri hine

泊まる-1SG.S ところ 1SG.S-を探す すると 川岸 下 掘られる て

iramkakaka pirka ciowri uske an hine

きれいに 良い 掘られる ところ ある て

泊る場所を探すと、川辺のがけの下に掘られた、きれいに掘られた場所がありました。《説話》

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ: C0162KM_34692AB_34693ABP 川上まつ子さんの民話(ア)

伝染病の神の息子とねたむ人間たち (1987))

⁶ 人称接辞は、身体名称や一部の親族名称に直接付いて所有関係を表す。(ku-tekehe「私の(ku-)手(tekehe)」, e-onaha「あなたの(e-)父(onaha)」等)

1-6 カナダではフランス語が話されている。【モノ主語受身，恒常的】

- (15) sake anakne amam ani a-kar pe ne.⁷
 酒 TOP 穀物(米) で INDF.S-を作る もの COP
 酒は米で造るものなり

(神保・金澤 1986[1898] : 148)

1-7 財布が (A に) 盗まれた。【モノ主語受身】

- (16) a-onaha a-unuhu kar pe hene opitta a-catcari a-perpaperpa
 1SG-父 1SG-母 を作る もの もまた すべて INDF.S-をまき散らす INDF.S-を何度も割る
a-yaspayaspa hi an sekor yaynu-an wa
 INDF.S-を何度も裂く こと ある QUOT 思う-1SG.S て
 父や母の作ったものなどもみんな散らかされて割られて裂かれていますと思って《説話》
 (国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ:C0215UT_35237AP 上田トシさんの民話(ア) まぼろしを見
 た女 (1997))

1-8 壁に絵が掛けられている。【モノ主語受身，結果状態の叙述】

- (17) hinak wa a-esipine p neno an pe ene kuma ka
 どこ から 1SG.S-を身にまとう もの ように ある もの このように 干し竿 も
a-eokokte wa an ruwe an sekor yaynu-an wa
 INDF.S-~を~に引っかける て ある こと ある QUOT 思う-1SG.S て
 どうして私の身についているようなものが，このように干し竿から
引っ掛けられているのだらうと思って《説話》

(大谷 2018 : 124)

1-9 AはBに／から愛されている。【感情述語の受身】

- (18) poro a-yupi a-saha sekor hawean-an kor an-an pe
 大きい 1SG-兄 1SG-姉 QUOT 言う-1SG.S ながら 1SG.S-いる もの
a-i-ukoomap wa
 INDF.S-1SG.O-と一緒に可愛がる て

お兄さん，お姉さんと (私は) 呼びながら暮らして (私は) みんなに可愛がられて《説話》

(千葉大学編 2015a : 521)

1-10 AはBに／から「…」と言われた。【伝達動詞の受身】

- (19) “hetak soyne” sekor a-i-ye hine soyne-an akusu
 “さあ 外へ出る QUOT INDF.S-1SG.O-を言う て 外へ出る-1SG.S すると
 「さあ外へ出る」と言われて私が外へ出たところ《説話》

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ:C0147KM_34609ABP 川上まつ子さんの民話(ア) 雷神にさ
 らわれた娘 (1985))

⁷ 原文の表記は「Sake anakne amam ani akarabe ne」

1-10-a AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。

(20) a-i-hunara a-i-tak TAKA
INDF.S-1SG.O-を探す INDF.S-1SG.O-を呼ぶ だか(日本語)

arpa-an kusu ne yakne
行く-1SG.S ~することになる ならば

俺が探し出され, 呼ばれて, (先祖の国へ) 行くことになった。《説話》

(千葉大学 (編) 2015b : 2096)

1-10-b BさんがAさんと呼んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

不明

略号

1: 1人称 (本稿では物語文中の叙述者の人称も含む), COP: コピュラ, INDF: 不定, O: 目的格, QUOT: 引用, S: 主格, TOP: 主題

参考文献, Web サイト

大谷洋一. 2011. 「和人の散文説話—継母から殺されかけた姉を救った妹—」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』17, pp.19-89, 北海道立アイヌ民族文化研究センター.

大谷洋一. 2018. 「アイヌ口承文芸「散文説話」—人間の女に惚れたフリを殺した男—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3, pp.117-133, 北海道博物館.

神保小虎・金澤庄三郎. 1986[1898]. 『アイヌ語會話字典』(新版) 北海道出版企画センター.

田村すず子. 1996. 『アイヌ語沙流方言辞典』草風館.

千葉大学 (編). 2015a. 『アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第2年次(北海道沙流郡平取町) 調査研究報告書 1/3』千葉大学.

千葉大学 (編). 2015b. 『アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第2年次(北海道沙流郡平取町) 調査研究報告書 3/3』千葉大学.

平石清隆. 2003. 『沙流地方のウウエペケレ〜上田としの伝承〜』.

「AA 研アイヌ語資料公開プロジェクト」, <<https://ainugo.mond.jp/>>. (2025-11-9 閲覧)

「国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ」, <<https://ainugo.nam.go.jp/>>. (2025-11-9 閲覧)

執筆者連絡先 : yoshikawa.yoshimi1@pref.hokkaido.lg.jp

原稿受理 : 2026年11月30日

刊行年月日 : 2026年3月31日